

第2回アドバイザリー会議

-
- 日時 9月24日（水）10：00～
 - 場所 301会議室

会次第

時間	内容
10：00～	<p>1 出席者紹介 <アドバイザー> ・株式会社イツノマ 代表取締役 中川敬文さん <オブザーバー> ・アカデミック・リソース・ガイド 有尾柚紀さん</p> <p>2 これまでの経緯 (1) 第1回アドバイザリー会議 (2) 議会報告 (3) 市民参画 (4) 先進地視察</p>
10：45～	<p>3 議事 (1) 基本理念・ビジョン・コンセプトについて (2) 子育て支援機能について</p>
11：20～ 今後の予定	<p>4 今後のスケジュール (1) 第3回 日向ラボ・ラボ</p>

1. 出席者紹介

2. これまでの経緯

これまでの経緯

- 6月 3日 第1回図書館・生涯学習チーム会議／複合施設チーム会議
- 6月 13日 第2回図書館複合施設整備庁内検討委員会
- 6月 23日 議会総務政策環境常任委員会（候補地について）
- 6月 26日 第1回アドバイザリー会議
- 6月 27日 議会全員協議会（図書館複合施設整備事業について）
- 7月 3日 意見交換会（商工会議所青年部）
- 7月 5日 第1回日向ラボ・ラボ（吉田右子さん講演会＆意見交換会）
- 7月 8日 図書館複合施設整備基本構想 公募型プロポーザル審査会
- 7月 9日 意見交換会（商店街）
- 7月 17日 日向高校フロンティア科1年生 ワークショップ
- 7月 30日 第1回事業手法チーム会議

これまでの経緯

- 8月 8日 第2回日向ラボ・ラボ（移動遊び場、移動図書館など）
～10日
- 8月12日 第2回図書館・生涯学習チーム会議
- 8月22日 第2回子育て支援チーム会議
- 8月26日 先進地視察（新潟・岐阜方面） 図書館・生涯学習チーム
～29日
- 8月28日 先進地視察（福島・栃木方面） 複合施設チーム
～30日
- 9月18日 第3回子育て支援チーム会議
- 9月24日 第2回アドバイザリー会議
- 9月25日 第3回図書館複合施設整備庁内検討委員会
- 9月27日 第3回日向ラボ・ラボ（中高生が行きたくなるカフェづくり体験）

2 これまでの経緯

(1) アドバイザリー会議

第1回アドバイザリー会議（6月26日）要旨

■開催日：

6月26日(木) 10:00～11:30 桑野教授、青山准教授

7月 9日(火) 13:30～15:00 (株)イツノマ 中川さん

■事務局：総合政策部長、総合政策課(麻田、押川、野村、一木)、

図書館(海野、貴田)

■会議の内容

1. あいさつ

2. アドバイザリー会議及びアドバイザー紹介

3. 議事

(1)これまでの経緯、基本的事項について

(2)検討体制について

(3)令和7年度の取組内容について

(4)図書館複合施設整備プロジェクト「日向ラボ・ラボ」について

1. 基本方針に対する評価

委員からは「現在の図書館の状況や先進事例、そして市民との協働意識が丁寧に進められている」との評価があり、新施設に対する期待感が高い状況。

2. 質疑応答

○複合施設としての機能決定

(質問)基本構想では、どの施設を複合するか決定する見込みか。

(回答)年内に図書館に複合化する機能を選定する予定。施設の最適化、稼働率の低い既存施設の機能移転を含めて検討を進めている。

○事業手法について

(質問)PFIを活用して事業を進める方向か。

(回答)事業手法としては、PPP/PFI(公民連携)を含む複数の選択肢(直営、公設民営型など)を比較検討中。今年度中に方向性を決定予定。長期的な視点で「直営 vs 民営」のメリット・デメリットを評価し、適切な選択を模索中。

第1回アドバイザリー会議（6月26日）主な意見

1 未来の図書館像とデジタル化の進展

図書館の役割は10～20年後の社会変化を見据えた対応が必要。レンタル事業の衰退が指摘され、紙媒体の役割やA I 技術普及に伴う図書館の利用価値の変遷を考慮。長期的視点で将来的に柔軟に対応できる施設計画を立てるべき。

2 ユーザーの期待と基本構想

- 図書館複合施設が市民の期待を集める中、「図書館本来の役割」が後回しにならないよう配慮する必要性が強調された。
- 図書館の未開拓な利用法を広く市民に認知させる取り組みを継続する必要がある。

3 デジタルとアナログのバランス

- 都市と地方における書籍や体験、居場所の差が指摘され、物理的な接触（書籍や体験）が可能な場所の重要性が強調される。
- 特に、地域資源が減少する環境下では、書籍や郷土資料など「生」の形で触れる機会の確保が必要。
- デジタル化が進む中でも、2040年を目指したバランス調整が必要であり、向こう20年は紙媒体とデジタルの技能を共存させる施設像を目指すべきという考え方。

第1回アドバイザリー会議（6月26日）主な意見

4 学校連携と若者の居場所

- ・学校との連携強化：紙媒体の書籍や郷土資料を学校図書館を通じて活用する方針を議論。しかし、現状では教育委員会や教員との連携が難しいことが課題。教員の負担軽減や体制整備が不可欠。
- ・若者の居場所：部活動の地域移行が進む中、高校生や中高生が放課後や土日に過ごす場所として、図書館複合施設を活用する可能性が示唆される。
- ・具体例として、「ティーンズスタジオ」の設置や趣味・学習ができるスペースが挙げられる。

5 複合施設としての場所の「呼び名」と機能性

- ・理念に基づき、図書館と他施設の「有機的なつながり」が重視されるべき。名称も施設の理念を反映したものが大切とされる。
- ・海外事例：ヘルシンキの「オーディ図書館」やニューヨークの図書館が参考例として挙げられ、居場所としての役割を拡大している図書館の形が紹介される。

6 学校の現状と将来予測

- ・教員採用試験の低迷から、教育環境の大幅な変化が予測される。これにより、学校教育と地域の連携が深化する可能性がある。特に教員の労働環境改善と地域資源の共有化が重要課題に。
- ・具体的な連携方法として、校長やキーパーソンを中心に事例を積み上げる形が主流

2 これまでの経緯

(2) 議会報告

2 これまでの経緯

(3) 市民参画 (日向ラボ・ラボ)

第1回 日向ラボ・ラボ（7月5日）



HYUGA CITY

みんなで創る新しい図書館複合施設

日向ラボ・ラボ通信

2025
7 VOL.01

「日向ラボ・ラボ」キックオフを開催しました！

令和7年7月5日（土）、日向市役所で新しい図書館複合施設の整備にむけて「日向ラボ・ラボ」のキックオフイベントを開催しました。当時は、111人の市民の皆さんにご参加いただき、「新しい図書館って、どんな場所になったら素敵だろう？」というテーマのもと、わくわくしながら意見を交わしました。

「日向ラボ・ラボ」は、「みんなのってみたい！」をカタチにできる新しい市民参加型のプロジェクトです。皆さんの声一つひとつが、未来の図書館の形をつくりていきます。

講演会 あなたの居場所を考えよう。みんなで創る新しい図書館。

ゲストは、筑波大学の吉田右子先生。「あなたの居場所を考えよう。みんなで創る新しい図書館。」をテーマに、北ヨーロッパの事例を交えながら、図書館が「誰にとっても開かれた居場所」となるためのヒントを語っていました。特に印象的だったのは、「図書館は『本が並ぶ場所』だけではなく、出会いと学びの場。子どもも大人も、高齢者も、多様な人が集い、思い思いに過ごせる場所と一緒にデザインしていきましょう。」という言葉に、会場の参加者も大きくうなづいていました。

講師：筑波大学
図書館情報メディア系
吉田右子さん

北欧における公共図書館のとらえかた

- 文化的な刺激
- 学びの場
- 文化仲介者としての司書
- 創作活動
- 出会いと社会参加

北欧の図書館 デンマークの図書館は壁がない。会話から学びが始まる！

21世紀北欧公共図書館の空間実態

北欧の図書館は音を出してもOK。建物内に壁はほとんどありません。静かなゾーンと賑やかなゾーンが分かれています。

デンマークの図書館は、とても自由にぎやかな場所です。飲み物や軽食の持ち込みもOK。おしゃべりを楽しんだり、手芸やミシンで服作りをしたり、思い思いの時間を過ごす人たちでいっぱいです。

地域の「出会いと学びの場」として、議員と市民が気軽に意見を交わす場面も見られます。借りられるのは本だけでなく、音楽や映画、ゲームなどさまざま。子どもの宿題のサポートやスマートフォンの使い方を教わる講座も人気です。

誰もが気軽に立ち寄れて、学びや交流を楽しめる一そのまちのリビングのような空間が、デンマークの図書館なのです。

意見交換会 みんなで未来を語る！

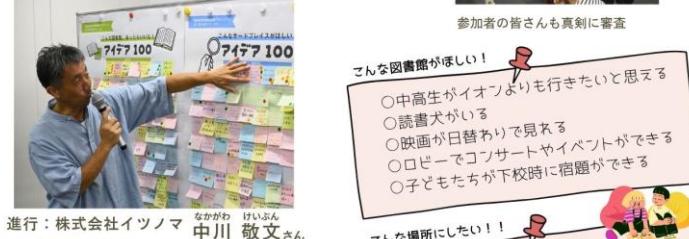
続いては、株式会社イツノマ・中川敬文さんがファシリテーターする意見交換会。テーマは「図書館が市民のサードプレイスとなるために必要なことは？」です。参加者の皆さんはグループごとに、「どんな図書館だったらもっと行きたくなる？」「みんなが居心地よく集まるには？」を真剣かつ自由な雰囲気で話し合いました。



意見交換会には、小学生も参加。「ハンバーガー屋さんが入っているといいな」など、楽しい意見が飛び出しました。

意見交換会 アイデア100！

「こんな図書館あったらいいな」「こんなサードプレイスが欲しい」をテーマに参加者全員で意見を出し合い、100個のアイデアが集まりました。その中でも、多くの票を集めめたベスト5が以下のとおりです。ユニークな提案ありがとうございました！



参加者の皆さんも真剣に審査

こんな図書館がほしい！

- 中高生がイオノリも行きたいと思える
- 読書犬がいる
- 映画が日替わりで見れる
- コンサートやイベントができる
- 子どもたちが下校時に宿題ができる

第2回 日向ラボ・ラボのお知らせ

✓日時 8月8日（金）～10日（日） 10時～16時
✓場所 日向市文化交流センター
✓対象 小学生以下（保護者同伴）
✓内容 移動図書館や読み聞かせ、ボーネルンド社の「移動遊び場」、パルクールおにごっこなど。
入場無料

○ ちょっとだけ昼寝できる
○ ダラダラできる
○ アート体験・ワークショップができる
○ フリマなどのイベントができる
○ 映画が見える

○ 向市役所総合政策課 〒883-8555 日向市本町10番5号
TEL.0982-66-1001
E-mail sougou@hyugacity.jp

第2回 日向ラボ・ラボ（8月8日～10日）

HYUGA CITY HYUGA LABO LABO

日向ラボ・ラボ

みんなで創る新しい図書館。

8月8日・9日・10日 午前10時～午後4時

日向市文化交流センター(大ホール)

ボーネルンドの移動遊び場 無料/当日申込
対象年齢：乳幼児（6ヶ月）～小学生
保護者の同伴が必要です。

エアトラック

マジックランプ 宮崎県内初！
パルクール鬼ごっこがやってくる！ 無料/当日申込

マジックランプ 学びのタネを育てよう。
みんなで育む未来のこども

パレオニ パルクール体験会／モ閣怪！
対象年齢：3歳～小学生
対象年齢：3歳～小学生
パルコニ(パルクール鬼ごっこ)は、パークド内にある障害物を避けながら1対1で行なう鬼ごっこです！

ワークショップ パラコードキーホルダー作り 無料/当日申込
対象年齢：3歳～小学生
実施時間：各日2回
①11:45-12:30
②14:15-15:00

パルクール 「走る」「跳ねる」「乗り越える」「掴まる」「バランスを取る」

ハイクオリティ ワークショップ
「絵本のよみきかせ」「歌って遊ぼう」

ひだまり図書館車 『ひだまり図書館』
子どもたちが楽しめる機会を増やしてもらるために、充電器や給水をさせて「ひだまり図書館」がやってきます！

特別上映会 8月9日(土)のみ
午前：「ソンサン」「ちいちゃんのかばくり」
午後：インド映画「RRR」

お問い合わせ 日向市役所 総合政策課 0982-66-1001

注意 安全運転上、中学生・高校生だけの入店はお断りする場合があります。
※落胆緩和のため、荷物検査を掲げることがあります。

HYUGA CITY HYUGA LABO LABO

みんなで創る新しい図書館複合施設 日向ラボ・ラボ通信

学びの種をまき 創造の芽を育て 希望の実を結ぶ 市民のサードプレイス VOL.02 2025.8

第2回「日向ラボ・ラボ」を開催。主役はこども達！

令和7年8月8日（金）から10日（日）の3日間、日向市文化交流センターで新しい図書館複合施設の整備にむけて第2回日向ラボ・ラボを開催しました。イベントでは、市民の皆さんから要望の多かった「こどもの遊び場」や「子育て支援機能」、「接客プログラム」や「カフェ」を実際に体験できるプログラムを用意しました。

3日間で1,686人の方に来場いただき、会場内はこども達の笑顔や元気な笑い声が溢れていきました。アンケートでは、次回のイベント開催や屋内遊び場の整備を望む意見が多くみられました。

移動遊び場 学びのタネを育てよう。みんなで育む未来のこども。

(株)ボーネルンド社の「移動遊び場」では、「エアトラック」「サイバートラック」といった「動」の遊具と、「マジックランプ」や「イマジネーション・プレイグラウンド」など「静」の遊具を配置しました。こども達は、こどもの遊びを手助けする「フレイリーダー」と一緒に、元気にジャンプしたり、走り回ったり思い切り体を動かしていました。また、こども同士ですぐに仲良くなり、お城や橋と一緒に作って遊ぶ様子が見られました。

ボーネルンドの移動遊び場

マジックランプ
①10:30-11:45
各日3回
②13:00-14:15
③14:45-16:00

サイバーホール

イマジネーション・プレイグラウンド

ワークショップ パラコードキーホルダー作り

パルクール 「走る」「跳ねる」「乗り越える」「掴まる」「バランスを取る」

ハイクオリティ ワークショップ
「絵本のよみきかせ」「歌って遊ぼう」

こどもイベント 「絵本のよみきかせ」「歌って踊ろう」は乳幼児に大人気！
文化交流センターのロビーでは、図書館ボランティアによる「絵本のよみきかせ」や保育士による「歌って遊ぼう」、保健師による「子育て相談」を行いました。「紙コップで遊ぼう」のコーナーでは自分の背丈よりも高いタワー一人だけの隠れ家など、自由な発想で遊んでいました。

保育士 ●絵本のよみきかせ
歌って遊ぼう
紙コップで遊ぼう

子育て相談

カフェコーナー カフェやパンの販売
「図書館に欲しい機能」として要望の多い「カフェ」の実証実験を行うため、市内から3店舗が出店。福祉施設のパンの販売もあり、大盛況でした！

ひだまり図書館号 本との出会い
図書館に欲しい機能
●屋内遊び場 250人
○カフェ 165人
○屋外遊び場 113人
○体験コーナー 106人
○子育て支援 82人

屋内の遊び場について
図書館と一緒につくってほしい 217人
○図書館と一緒につくってほしい 60人
○図書館で別につくってほしい 2人
○特に必要なし 27人
○わからない 27人

第3回 日向ラボ・ラボのお知らせ

- ✓日時 9月27日（土）13時～17時
- ✓場所 日向市役所1階 市民ホール
- ✓対象 中学生・高校生（定員35人）
- ✓内容 「行きたくなるカフェづくり」
カフェで使用する飲み物やエプロン、コースター等の製作のほか、空間デザインや動画作成等を体験します。

要予約

お問い合わせ 日向市役所総合政策課 〒883-8555 日向市本町10番5号
TEL 0982-66-1001
E-mail sni000@hyugacity.in



“動”の遊び





目的

第2回日向ラボ・ラボでの体験の様子や、地域における日常の子育ての状況を把握する

第2回日向ラボ・ラボに参加している親子にインタビューを実施し、今回開催した第2回日向ラボ・ラボでどのような体験が生まれていたか、また、今回のラボ・ラボのようなイベントがない普段の日常で、子育て家庭がどのような過ごし方をしており、どのようなニーズや課題を持っているかを調査した。

主な質問内容(状況に応じて変動)

- ・ 第2回日向ラボ・ラボ参加の動機・当日の体験について
- ・ 普段の休日等の過ごし方、出かける場所
- ・ 日常生活で課題に感じている点
- ・ 日向市内に望むもの、図書館複合施設への期待

実施スケジュール・インタビュー対象

日時	実施場所	インタビュー対象者
8月8日（金） 午後	日向市文化交流センター	以下の10組の参加者家族にインタビューに対応いただいた。 • 母、男の子 • 父、母、男の子(年長) • 母、父、女の子2人(6歳双子) • 母、女の子(3歳) • 父、母、女の子3人(9歳・6歳・0歳) • 母、父、男の子(1歳9ヶ月) • 母、子2人(3歳・1歳) • 母、男の子(4歳) • 母、男の子(7歳)、女の子(4歳) • 父 ※女の子(1歳6ヶ月)がいる
8月9日（土）		

インタビューの結果

第2回日向ラボ・ラボ参加の動機・当日の体験について

- ・組み立てたりする遊具(イマジネーションプレイグラウンド)で遊んだりしていた。
- ・遊具全体的に遊んだ。
- ・晴れていれば別の予定があったが、天気が悪くここへ来た。ラボ・ラボのことは夕刊を見て知った。
- ・パルクールが長女のメインの目的で参加した。
- ・遊センターでイベントがあることを知った。
- ・トランポリンや紙コップで遊んだ。
- ・3歳と1歳の子どもとはとことおじいさんで来た。
- ・サイバーホイール(ボーネルンドの、中に入って転がる遊具)をお目当てで来たが、トランポリンやパズルで盛り上がった。
- ・パズル(おそらく(イマジネーションプレイグラウンド)は大きい子も小さい子も一緒に遊べてよかったです。その場で出会った子とも一緒に遊んでいた。
- ・パルオニが1番楽しかった。
- ・イベント情報を発信しているアカウントをフォローしており、イベント情報はほぼインスタで得ている。今回のイベントもインスタで知り参加した。
- ・パルオニを楽しんでいた。人見知りをしないので他の子ども自然に遊んでいた。
- ・キーholderも楽しんでつくっていた。
- ・お絵描きも大好きで、大きく描けると楽しい。
- ・本当はもっと早く帰ろうと思っていたが、子どもたちが楽しんでいるので、予定よりも長く滞在することになった。

普段の休日等の過ごし方、出かける場所(1/2)

- ・市外にまで出かけることはあまりない。出かけるとすると宮崎市の恐竜の展覧会などに行くことがある。
- ・日常で遊ぶのは公園。公園に行けば、同級生や後輩に会えるのでよい。真夏は外は暑く厳しいので室内で遊べるのは非常に良い。
- ・家族で山にも行くが、本格的な山登りはまだ無理なのでハイキング程度になる。
- ・ショッピングモールにも行くが、お金がかからってしまうので、親としては今日のような場があるのは嬉しい。

普段の休日等の過ごし方、出かける場所(2/2)

- ・身体を動かす遊びはそこまで興味を示さない方である。つくるような遊びが好きで、休日は市外の商業施設などのワークショップの情報を探して行く。
- ・情報は自分で探すが、イベント情報のようなものがまとまっているところがあると便利だと思う。
- ・図書館にはイベントがないとあまり行かない。
- ・かどがわ温泉心の杜を使うことがある。
- ・休日は公園や家のおもちゃで遊ぶ。公園で遊ぶ場合は一人遊びになり、滞在時間は30分程度。
- ・天気が良ければ川などで遊ぶ。今年は休日の天気が悪くあまり行けていない、長女の友達の家族ぐるみで遊ぶこともある。
- ・延岡のエンクロスに行くことはあるが、習い事の習字の展示がある時くらいにしか行かない。
- ・平日は遊センターや子育て支援センターのイベントに参加しているか、公園で1時間程度遊ぶことが多い。まだ小さいので他の子と遊ぶようなことはできない。
- ・休日は買い物に出かけたりしている。
- ・宮崎市にはキッズパークのようなものがあるので行くことがある。
- ・日常はもっぱら公園で過ごす。最近は暑いので市内の近所の公園へ。公園で遊んでくれるとすんなり寝てくれるので助かる。
- ・公園に行くと少し上の兄ちゃんたちと遊んでくれる。お兄ちゃんがいると非常にありがたい。
- ・普段は近所の公園の遊具で遊ぶ。知ってる子も初めましての子も、そこにいる子と一緒に遊ぶ。
- ・真夏は暑いのでドライブをしている。
- ・普段は公園で遊ぶ。真夏は屋内のイベントを探して行くことが多い。
- ・延岡市に子どもの施設があり利用する。
- ・日向市は近いもあるが、STAIRS OF THE SEAや雑貨屋等があるので行くことがある。
- ・週末は、延岡の子育て支援施設えんキッズに連れて行く。事前予約が必要である。
- ・子ども連れて行くとすると宮崎市は負担が大きいと感じる。

日常生活で課題に感じている点

- ・ 土曜日に仕事があるが、日曜日は市内のどの施設も開いておらず、遊びに行く場所がないのが悩みである。
- ・ 3歳と5歳の子がいるが、それぞれ対象年齢で遊べるエリアが違うため、サンパークは使いづらく感じている。
- ・ 子育て支援センターには行きにくいと感じる。やってはいけないことが多くて気を遣う。子どもに制限をかけている気がする。図書館も同様に気を使うためハードルが高く感じる。
- ・ 普段はこのように遊ぶ場がない。子育て支援センターがあっても日曜日に開いていないので仕事をしていると利用できない。
- ・ 雨の日は体動かせないのでストレスがたまる。
- ・ 絵本も好きだが、体を動かせないと全然寝ないので困る。
- ・ 宮崎市に出るのは一大イベントで大変である。
- ・ 下の子がいるのでなかなか遠くには出れない。
- ・ そもそも子どもを連れてい行ける飲食店が少ない。持ち込みも可能な場所があるといい。
- ・ 日向市は移住者が多いので、祖父祖母がいないと預ける先がなく困ることがある。

日向市内に望むもの、図書館複合施設への期待(1/2)

- ・ 今回のような屋内で遊べる機会があるとありがたい。
- ・ 親同士の交流の機会もあまりないので、そのような機会があるとよいかもしれない。
- ・ 年代ごとに楽しめるような場があるとよい。
- ・ 本と体を動かすこと、両方できるとよい。兄弟姉妹の中でも好みもある。また、個人の体調などによっても選べるとよい。
- ・ 本があると親も過ごすことができてよい。
- ・ 新しい施設には子どもも遊べて親同士も話ができるような場所があるとよい。
- ・ 新しい施設では食べれたり飲めたり一緒にできるとよい。
- ・ エンクロスのような遊び場があるとよい。
- ・ 少しだけ大きくなったら子どもだけで安心して遊ばせられる場所があると嬉しい。

日向市内に望むもの、図書館複合施設への期待(2/2)

- ・ 今日のイベントみたいに屋内で色々遊べるのは助かる。
- ・ 安全で元気に遊べる場ができるのはとても楽しみ。
- ・ 絵本と遊ぶ場があると、遊びの方に行くだろう(絵本は寝る前にという習慣がある)
- ・ 遊んだ後に絵本を借りて帰ることができるとよい。
- ・ 日向市に新しい施設ができたらぜひ利用したい。
- ・ 子どもを連れていったときに軽食でもいいので食べられるといい。そうすると長時間過ごすことができる。
- ・ 日曜日に預かり保育があるととても助かる。

気づき・特記事項

- ・ 静的な遊びと動的な遊びのスペースがバランスよく分けられており、それぞれの遊びが心地よく展開されていた。
- ・ 子どもの泣き声がほとんどなかった。(→多様な体験が存在し、どの子も楽しさを感じていたのではないか。また、キャパシティに 対して適切な参加規模であり、待ち時間や遊び道具の取り合いが発生しないなど、ストレスの少ない環境となっていたのではないか)
- ・ 日常生活での公園利用の多さと、そこに集う子ども同士の遊び。
- ・ 市外だと、宮崎市は遠出する印象で負担を感じているのに対し、延岡市はより身近である。
- ・ 移住者の頼れる存在がない(→サポート体制の必要性)

2 これまでの経緯

(3) 市民参画 (新しい図書館を語る会)

日向商工会議所青年部

日時：7月3日（木） 11：00～12：00

場所：日向商工会議所

人数：10人



I 図書館（本館）に改善してほしいこと

- ✓ 仕事の休みが月曜日なので閉館している。使用することが難しい
- ✓ 現在の図書館の配架は本が探しにくいと感じる。電子書籍などに取り組んでもらいたい
- ✓ 開館の時間を長くしてほしい（20時や21時まで）

II 新しい図書館に期待すること

- ✓ 会議・ミーティングができる場所、コミュニティの場としての機能が欲しい
- ✓ 防災拠点としての考え方も持つてほしい
- ✓ 中心市街地に波及があるよう取り組んでもらいたい。
- ✓ 例えば映画館がある等、何か目玉になるようなものがあれば若者が興味を持つのではないか。
- ✓ 市外や県外から視察に来るような建物にしてもらいたい
- ✓ 講演会でよく使用する100人～200人程度が入る規模の部屋が欲しい。
- ✓ 配置を自由に変えられるよう、移動式のステージ、フラットな床の傾斜が望ましい
- ✓ 複合化することで何でもかんでもになってしまってターゲットを絞つてほしい
- ✓ 子育て世代が利用しやすいようにしてほしい
- ✓ 平日でも利用できるようなコンテンツを設け、にぎわいのある施設にしてほしい
- ✓ 広くなんでもできる施設というよりも市民に理解が得られるようなものにしてもらいたい

商店会

日時：7月9日（水） 9:00～10:30

場所：日向市役所

人数：4人（ひゅうが新町商店街振興組合、本町商店会、原町商店会）



I 図書館（本館）に改善してほしいこと

- ✓ 図書館単体だけではなく、市役所との連携も必要だと思う。
- ✓ 新しい図書館ができる前に、今の内から学校図書との連携を行ってもらいたい。
- ✓ 開館時間等、施設の使い勝手が良くなるような取組が必要だと思う。
- ✓ 開館時間の希望については、使用頻度が高いと思われる高校生に聞いてみると良いのではないか。
- ✓ 図書館でボードゲームなどの遊びができる良いのではないか。

II 新しい図書館に期待すること

- ✓ 市外からも足を運んでもらうための視点が必要ではないか
- ✓ 周辺施設との連携を取ってもらいたい
- ✓ 小学生などが勉強したくなるような施設にしてもらいたい
- ✓ 図書館の施設内に飲食店を入れる場合、チェーン店等ではなく、地元のお店と連携してもらいたい。
- ✓ 市内に美術館などの文化に触れることのできる施設が少ない。常設でなくてもいいのでギャラリースペースがあると良いのではないか
- ✓ 人が集まるためには居心地の良い施設であると良いのではないか。
- ✓ デザインにこだわることはせず、使い勝手の良いものにしてほしい

日向高等学校フロンティア科1年生

日時：7月17日（木）11：00～12：10

場所：日向高校

人数：41人

I こんな図書館あつたらいいな

- 1.飲食ができるカフェやドリンクバー、軽食販売があるくつろげる図書館。
- 2.広くてきれいな空間で、自然光が入る開放的なデザイン。
- 3.勉強や読書に集中できるスペースや個室、Wi-Fiや充電設備の充実。
- 4.多様な本がそろい、本屋併設や電子貸出など利便性が高い。
- 5.子どもも楽しめる遊び場やゲームスペースがあり、誰でも気軽に利用できる環境。



II こんなサードプレイスあつたらいいな

- 1.カフェやスイーツショップなど、ゆったりくつろげる飲食スペースが充実している場所。
- 2.一人で静かに過ごせる防音個室や寝床、ハンモックなどリラックスできる空間。
- 3.映画館やプラネタリウムなど多様な娯楽施設が併設されている場所。
- 4.自然が感じられる景色の良い空間やツリーハウス、公園など屋外の憩いの場。
- 5.友達と交流や勉強ができるスペースや、多文化交流・習い事教室など多目的に使える場所。

※ 日向高校が実施する課題型学習の授業を活用してワークショップを実施。

※ 付箋に貼られた意見を基にしてHyuga-AIを活用して文章化しています。

2 これまでの経緯

(3) 市民参画 (図書館来館者アンケート)

図書館 来館者アンケート(5/15～7/28)

回答数：44件

■全体総括

サービス関連が全体の78%と最多：飲食・カフェスペース、開放的な環境が求められている。
- 改善点では、館内の雰囲気や動線に関する意見が挙げられました。

■提言

1. 世代別ニーズへの対応が鍵：若年層（20代・30代）の意見を重視し、利用促進を図る。
2. サービスの充実：特にカフェスペースや赤ちゃん向けエリアなどの導入を検討する。
3. 施設改善への対応：明るい施設デザインや動線計画の再考を含めた改革案を検討する。

年代 (件数)	改善点	サービス
20代 (7)	開放的で明るい雰囲気にしてほしい	赤ちゃん向けのイベントを増やしてほしい 飲食スペースがほしい。公園か広場
30代 (18)	幼児向けの本を分かりやすく置いてほしい 子どもと一緒に、ゆっくり過ごせるスペースがほしい 学習スペースを充実してほしい 全体的にうす暗く、入りにくい印象を受ける。	託児スペース、ワーキングスペース 子どもにおすすめの絵本を紹介してくれるサービス 開放感のある吹き抜けスペースや中庭、裏庭 読書通帳制度の導入。上映会やおはなし会などのイベント
40代 (8)	駅の近くにあるといい。 施設の建て替え	カフェコーナー、電子図書 穏やかな空間で落ち着く。とても使いやすい
50代 (5)	夜に開館する日を増やしてほしい	カフェコーナー、電子図書、グッズ販売 いろんなワークショップを開いて欲しい
60代～ (5)	子供が使いやすいトイレにしてほしい	キッズスペースをもう少し使いやすくしてほしい 上映会など知らない人が多い。もっと増えると良い

2 これまでの経緯

(4) 先進地視察

図書館・生涯学習チーム（新潟・岐阜）視察概要

1. 目的

図書館を核とした複合施設の整備にあたり、本市の委託事業者であるアカデミック・リソース・ガイド（株）の支援を受け、昨年度オープンした新潟県小千谷市「ホント力。」及び周辺自治体の図書館複合施設2か所を視察する。また、第1回日向ラボ・ラボで講演いただいた吉田右子教授が「日本一の図書館」と評価された「岐阜メディアコスモス」及び周辺自治体の図書館複合施設1か所を視察・見学し、図書館複合施設整備基本構想並びに今後の図書館運営の参考とする。

2. 日程

令和7年8月26日（火）～29日（金）

3. 視察先

新潟県長岡市 米百俵プレイス「ミライ工長岡」

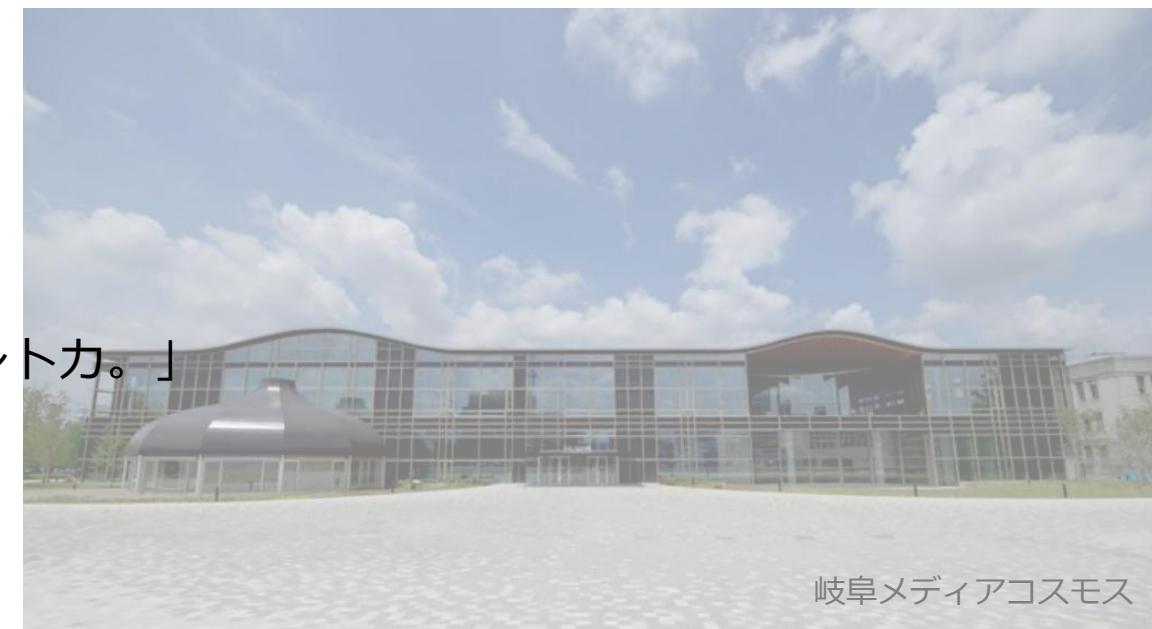
新潟県三条市 「まちやま」

新潟県小千谷市 ひと・まち・文化共創拠点「ホント力。」

岐阜県岐阜市 「岐阜メディアコスモス」

4. 派遣職員

図書館（海野、貴田）、総合政策課（麻田、野村）



岐阜メディアコスモス

複合化・事業手法チーム（福島・栃木）視察概要

1. 目的

図書館を核とした複合施設の整備にあたり、施設規模約5,000m²・JR黒磯駅に隣接・指定管理（TRC）の導入等がある「那須塩原市図書館みるる」、本市の委託事業者であるアカデミック・リソース・ガイド（株）の支援・直営での施設運営を行っている「須賀川市民交流センターtette」、人口約7.9万人・DBO方式の採用・シダックスによる施設運営等がある「真岡市複合交流拠点施設monaca」の視察により、図書館複合施設整備基本構想並びに今後の図書館運営の参考とする。

2. 日程

令和7年8月28日（木）～30日（土）

3. 視察先

栃木県那須塩原市「那須塩原市図書館みるる」、同「地域交流センターくるる」見学、
福島県須賀川市「須賀川市民交流センターtette」、同「翠ヶ丘公園（Park-PFI）」、
栃木県真岡市「真岡市複合交流拠点施設monaca」

4. 派遣職員

資産経営課（大崎、一木）、市街地整備課（岡本）、総合政策課（押川）



先進地視察を踏まえた今後の検討視点（概要）

＜今後の検討事項＞

■ 図書館運営について（図書館・生涯学習チーム、事業手法チーム）

- ・図書の蔵書規模の検討、企画展示や文化財展示の手法について研究しながら検討が必要。
- ・直営の場合は職員の人材育成、指定管理者の場合は受け手となる事業者や地元団体の有無が重要であり、本市に適した運営方法について、継続した検討が必要。

■ 複合施設の機能について（複合施設チーム、子育て支援チーム）

- ・「特定団体のための諸室や占有スペースを設けないこと」「市民が必要とし、使いやすい施設の機能、規模とすること」という視点を踏まえながら、今後検討を進める。

■ 事業手法、整備に向けたスケジュールについて（事業手法チーム）

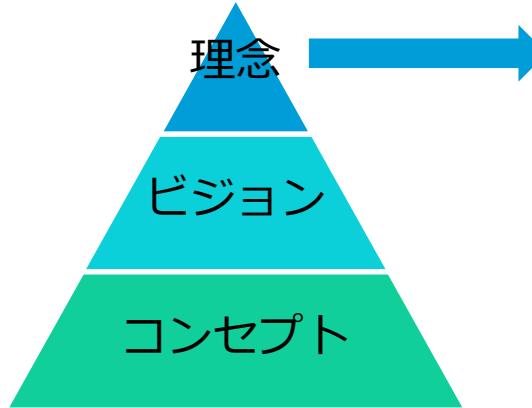
- ・図書館や複合施設の機能・規模の検討を行いながら、従来型手法やPPP／PFI手法の検討、施設の整備に向けたスケジュールを併せて検討。

3 議事

3 議事

(1) 基本理念・ビジョン コンセプトについて

基本理念



(1) 図書館複合施設の基本理念

新しい図書館複合施設は、「知の拠点」である図書館を核として、こどもや子育て世代、若者をターゲットに定め、学びや交流の場や子育てを支える環境づくりを目指します。また、市民の「第三の居場所（サードプレイス）」として、誰もが安心して快適に過ごせる場所を提供します。

以上の背景から、新しい図書館複合施設は、「学びの種をまき、創造の芽を育て、希望の実を結ぶ 市民のサードプレイス」を基本理念とし、すべての世代が集い、成長できる場を提供します

「学びの種をまき、創造の芽を育て、希望の実を結ぶ 市民のサードプレイス」

方針 1「学びの種をまき」：人々に学びの機会やきっかけを提供し、知識の基礎を築く

市民一人ひとりの知的好奇心を刺激し、学習意欲に応える多様な学びの機会を提供します。図書館の豊富な蔵書や資料に加え、子育て支援施設や遊び場を備えることで、子どもたちが遊びながら自然に学べる環境を整え、知識の基礎を築き、学びの重要性を広めます。

方針 2「創造の芽を育て」：学びを通じて得た知識をもとに、創造性や新たなアイデアを育む

様々なワークショップや体験型プログラムが開催できる場所を設け、実践的な学びと創造の場を提供することにより、創造性や新たなアイデアを育みます。市民の皆さんのが個々に持つ創造性や革新的な思考を促進し、新しい価値の創出を支援します。

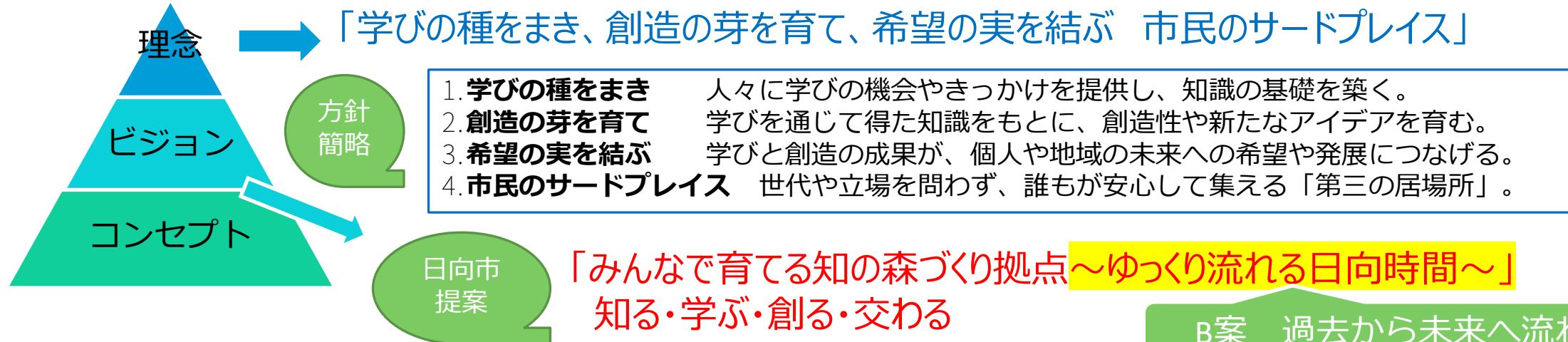
方針 3「希望の実を結ぶ」：学びと創造の成果が、個人や地域の未来への希望や発展につながる

学びと創造のプロセスを通じて得られた成果が、個人の成長だけでなく、地域社会全体の発展や未来への希望につながることを目指します。市民の皆さんの交流と協働を促進し、世代や分野を超えたネットワークを築くことで、コミュニティの絆を深め、持続可能なまちづくりを実現し、未来への希望と発展につなげます。

方針 4「市民のサードプレイス」：誰もが安心して快適に過ごせる「第三の居場所」

家庭や職場・学校以外の「第三の居場所（サードプレイス）」として、市民が自由に集い、安心して快適に過ごせる場を提供します。世代や背景を問わず、誰もが利用できる開かれた空間として、市民が主役となり、共創により交流や情報交換の拠点を築きます。

ビジョン（検討段階：イメージ）



新しい日向市図書館複合施設は、ゆったりと心地よい「日向時間」の流れのなかで、みんなが森を育てるように共に成長し合える場所です。

1. 知る 一本やデジタル情報、郷土資料、講座や対話を通じて、好奇心の「種」をまく。
2. 学ぶ ワークショップや実験で「芽」を育て、知識の根を深く張る。
3. 創る 一ものづくりやデジタル制作で「枝葉」を広げ、アイデアを形にする。
4. 交わる 一世代や立場を超えた交流で「森」をつくり、希望の「実」を結ぶ。

「知る」「学ぶ」「創る」「交わる」この4つのステップを通して、市民一人ひとりが成長し、(人づくり)を、世代を超えて、多様な人材が互いに支え合える地域づくり、にぎわいあふれるまちづくりへに繋げます。

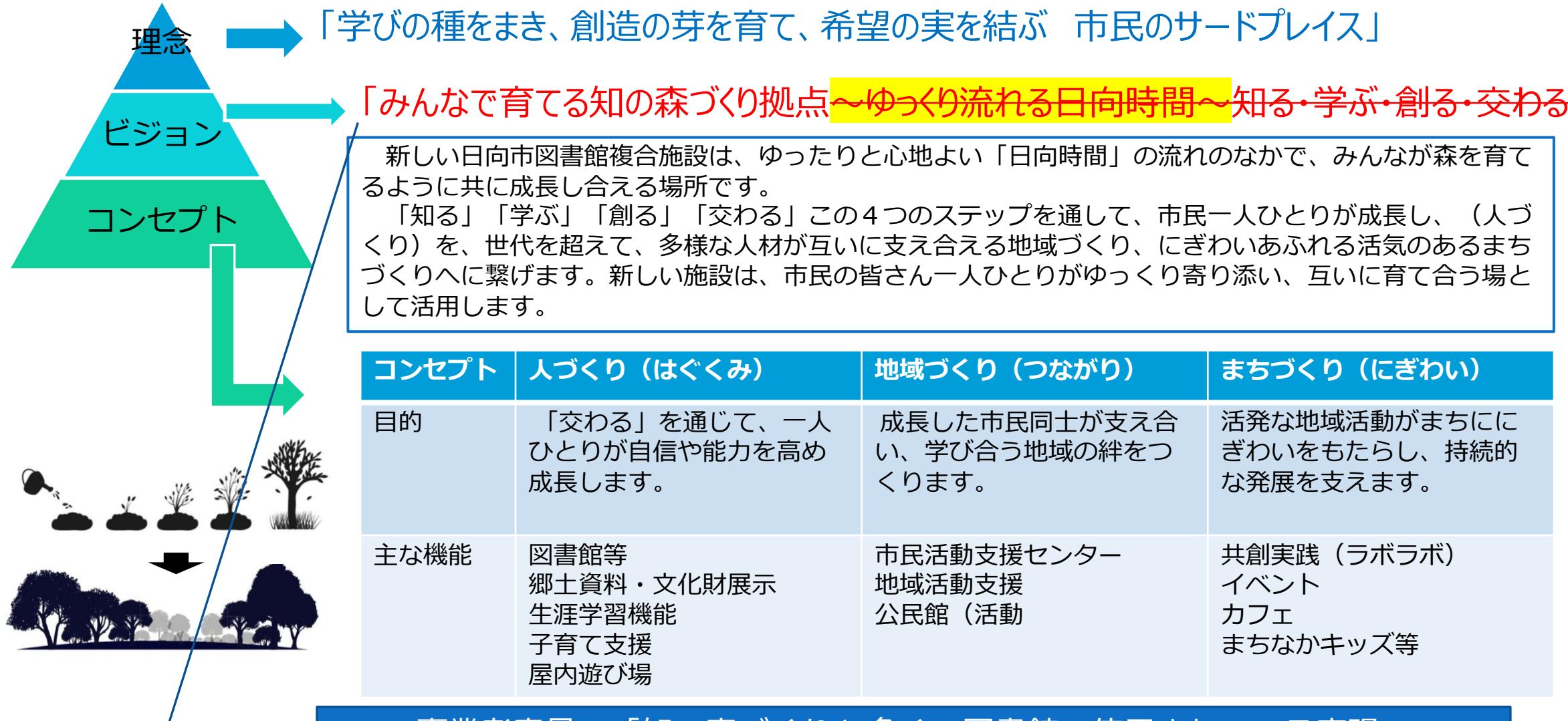
新しい施設は、市民の皆さん一人ひとりがゆっくり寄り添い、互いに育て合う場として活用します。

B案 過去から未来へ流れる

※その他候補

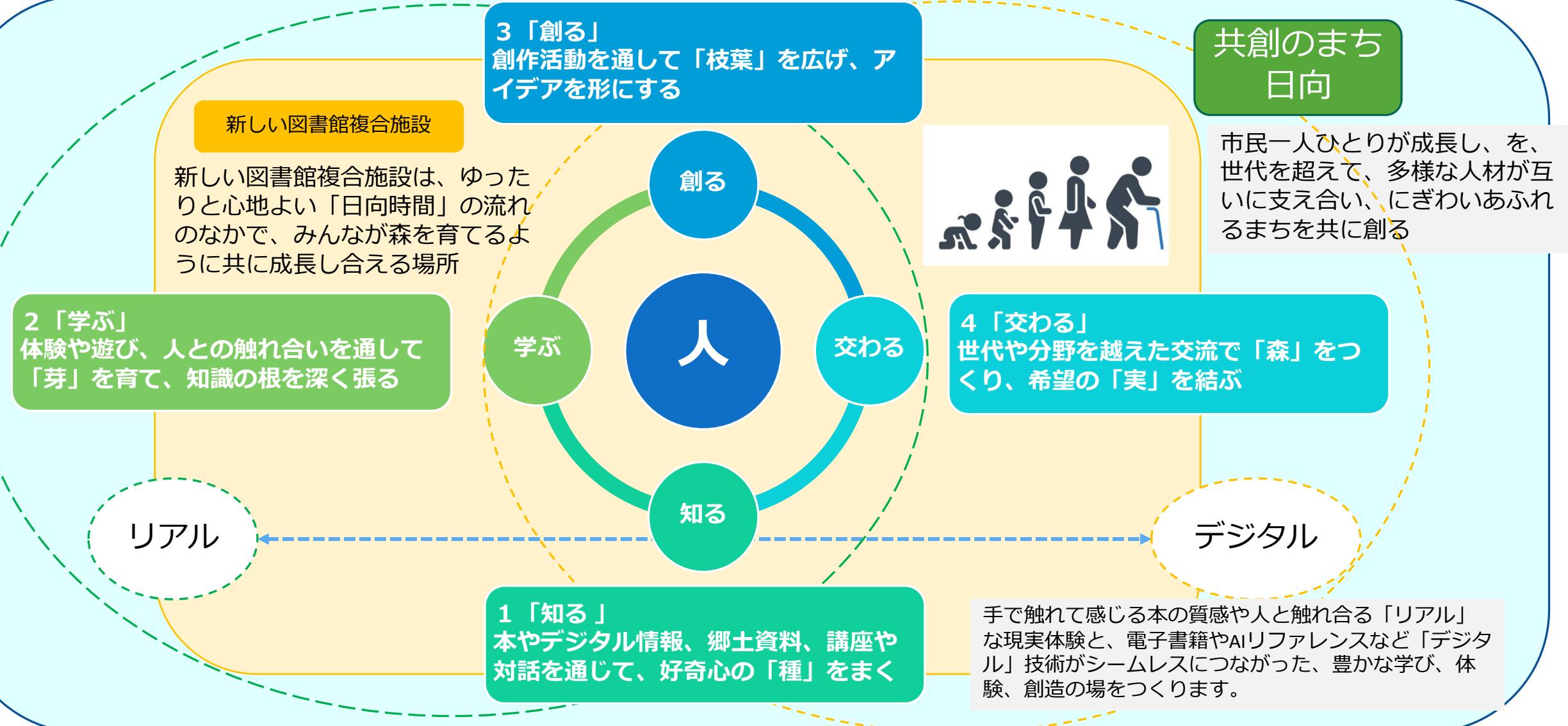
- ・探す：知識や情報を自ら積極的に見つけ出す姿勢を表現。
- ・深める：学びをさらに掘り下げて理解・習得する過程。
- ・育む：新しい発想や創造力を大切にし、成長させる意味。
- ・結ぶ：人と人、知識と知識をつなげる交流のイメージ。
- ・広げる：学びや交流をさらに多くの人・分野へ拡張していくこと
- ・つながる：人と人、心と心が自然につながる温かみ。

コンセプト（検討段階：イメージ）



事業者意見：「知の森づくり」多くの図書館で使用されている表現。
「日向らしさ」分かりやすい新しい表現を検討しては。→継続協議

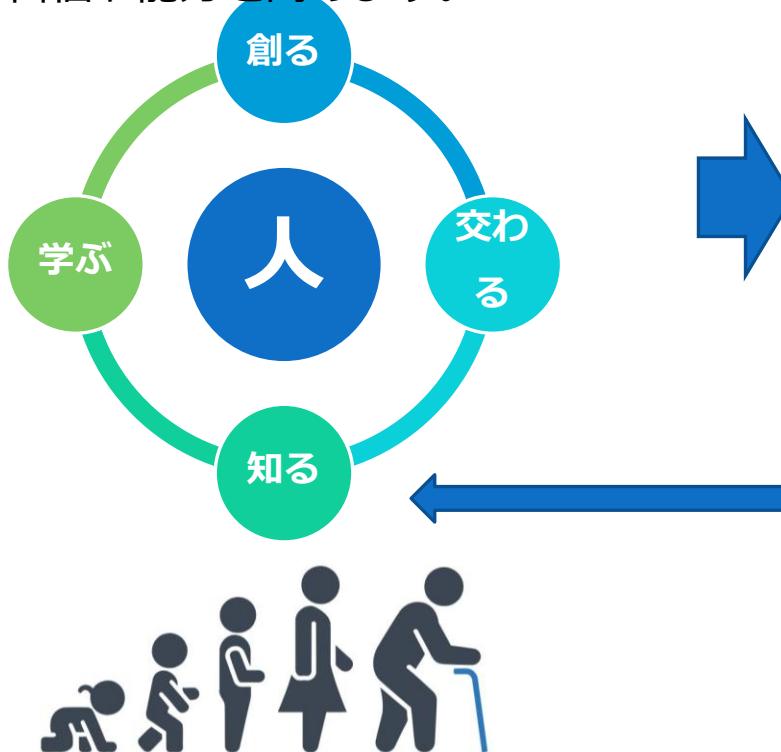
人づくりの循環（検討段階：イメージ）



相関図（検討段階：イメージ）

人づくり（はぐくみ）

「知る」「学び」「創る」「交わる」を通じて、一人ひとりが自信や能力を高めます。



地域づくり（つながり）

成長した市民同士が支え合い、学び合う地域の絆をつくります。



まちづくり（にぎわい）

活発な地域活動がまちににぎわいをもたらし、持続的な発展を支えます。



新たな「知る」を生む (知の集積)

活気あふれるまちの情報や体験が、次の「知る」の機会を生み、知の集積・人づくりのサイクルが再スタートします。

コンセプトと施設機能・行政機能の関係性

人づくり（はぐくみ）

「知る」「学ぶ」「創る」「交わる」を通じて、一人ひとりが自信や能力を高め成長します。

子育て支援・遊び場

若者の居場所・体験

生涯学習

地域づくり（つながり）

成長した市民同士が支え合い、学び合う地域の絆をつくります。

市民活動支援センター

自治会（区）公民館活動

市民協働・国際交流

まちづくり（にぎわい）

活発な地域活動がまちににぎわいをもたらし、持続的な発展を支えます。

共創実践（ラボラボ）

カフェ

イベント

図書館・郷土資料・文化財・デジタルツールなど「情報集積」

3 議事

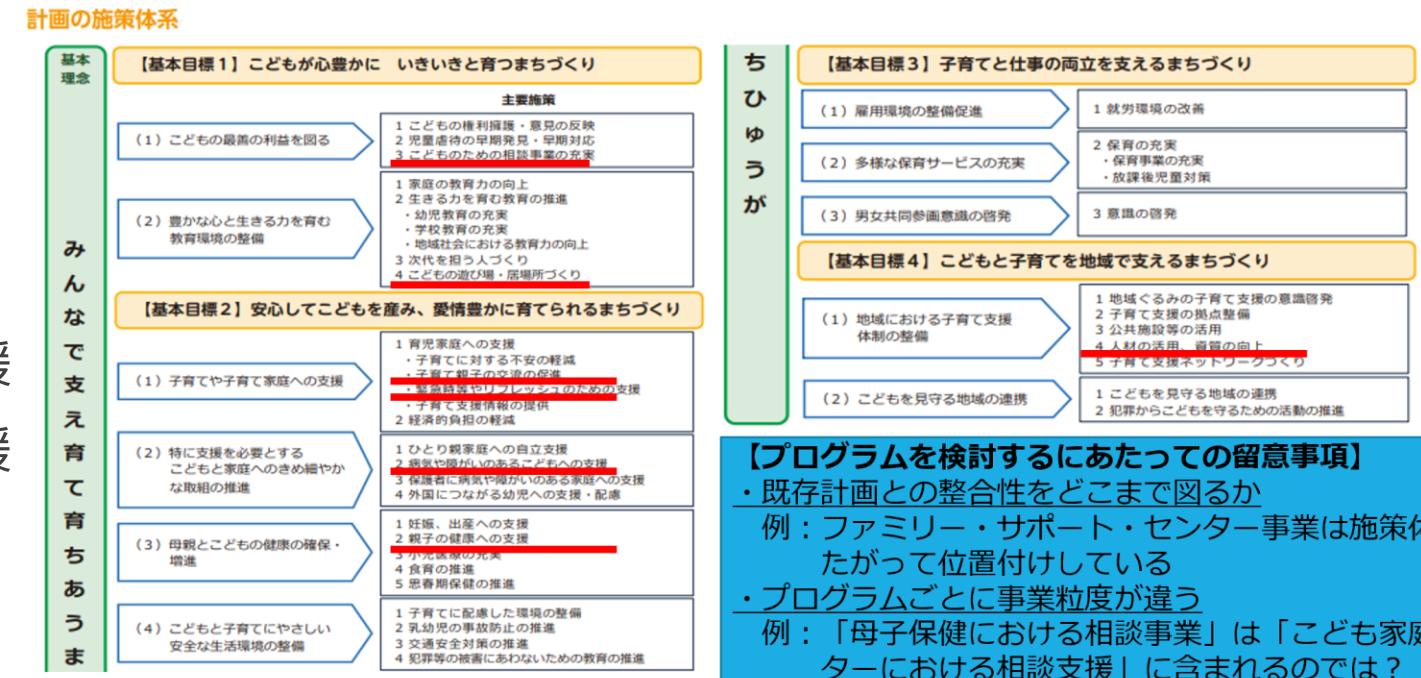
(2) 子育て支援機能

第3期「日向市子ども・子育て支援事業計画」

基本理念「みんなで支え育て育ちあうまちひゅうが」

主要施策

- ・子どものための相談事業の充実
- ・次代を担う人づくり
- ・子どもの遊び場・居場所づくり
- ・子育て親子の交流の促進
- ・緊急時やリフレッシュのための支援
- ・病気や障がいのある子どもへの支援
- ・妊娠・出産への支援
- ・親子の健康への助言
- ・子育て人材の活用・資質の向上



事業分野・推進事業等について

＜事業分野＞

(仮称) みんなで支え育て育ちあうまちひゅうが事業

【推進事業】

- (1) こども家庭センターひなたの森（健康管理センター）※移転
- (2) 母子保健（健診）事業（健康管理センター）※移転
- (3) 地域子育て支援拠点事業（商工会議所 1 階）※移転・拡充
- (4) 一時預かり機能 ※新規 保育所等で行われているリフレッシュや冠婚葬祭の為の「一時預かり」と、複合施設でのイベント等による短期利用の「一時預かり」を検討。
- (5) ファミリー・サポート・センター事業（商工会議所 1 階）※移転・拡充
- (6) 屋内遊び場 ※新規

※地域子育て支援拠点事業：地域子育て支援センター事業（一般型・連携型）等の総称

屋内遊び場

●屋内遊び場 ターゲット

- ・屋内遊び場として確保できる面積が400m²程度。
- ・子育て支援機能、図書館との連携、また平日の利用が多い年齢層等

ターゲット

未就学児（6歳未満） ※特に乳幼児

●屋内遊び場 遊具の種類など

- ・第2回ラボ・ラボの実証を通して、「動の遊び」が25%、「静の遊び」が75%
- ・固定式の遊具は、変化がなく飽きてしまう可能性がある。
- ・「遊び」を「体の成長」「学び」につなげる視点。→「創造」「体験」ができる場

※子どもの「遊び」を見守ることで、子どもの発達段階、健康状態、保護者との関係性などを把握し、子ども、子育て家庭に対し、必要な支援を行うことが可能となる。

遊具の種類

可動式。「動」と「静」の遊具。ごっこ遊び、体験型ワークショップ
親子で読書。読み聞かせができるスペース。

子育て支援機能の現状等

こども家庭センター ひなたの森（健康管理センター内）

「こども家庭センターひなたの森」のご案内

改正児童福祉法により、市町村に対して、母子保健部門と児童福祉部門の従来の拠点を統合し、全ての妊産婦、子育て世帯、こどもへ一体的に相談支援を行う新たな拠点「こども家庭センター」を設置することが努力義務化されました。

両部門を一体的に運営することにより、ご家庭に応じた切れ目のない支援や虐待への予防的なサポートなどの取り組みを強化するために行われるものです。

本市におきましても、「日向市子育て世代包括支援センター」(母子保健)と「日向市子ども家庭総合支援拠点」(児童福祉)を統合し、5つの柱を機能とした、「日向市こども家庭センターひなたの森」を令和7(2025)年7月30日に開所しました。

ご家庭・地域における、こどもと大人の「心の結びつき」を深めていきます！

* センター機能の5つの柱 *

①すべての妊産婦・保護者・子どもの相談窓口

母子保健・子育て支援・児童相談が一体となった相談支援窓口

②ご家庭の子育て・愛着形成をサポート

乳幼児健診・ペアレンティングサポート・家庭支援事業などの勧奨・推進

③こども・家庭と応援機関や地域とのつながりづくり

関係機関・団体の連携によるご家庭ごとの“こども・子育て応援団”を形成

④地域資源・民間支援の取り組みの広がりをフォロー

地域資源開拓コーディネーターを配置し、民間支援の立上げ・継続をサポート

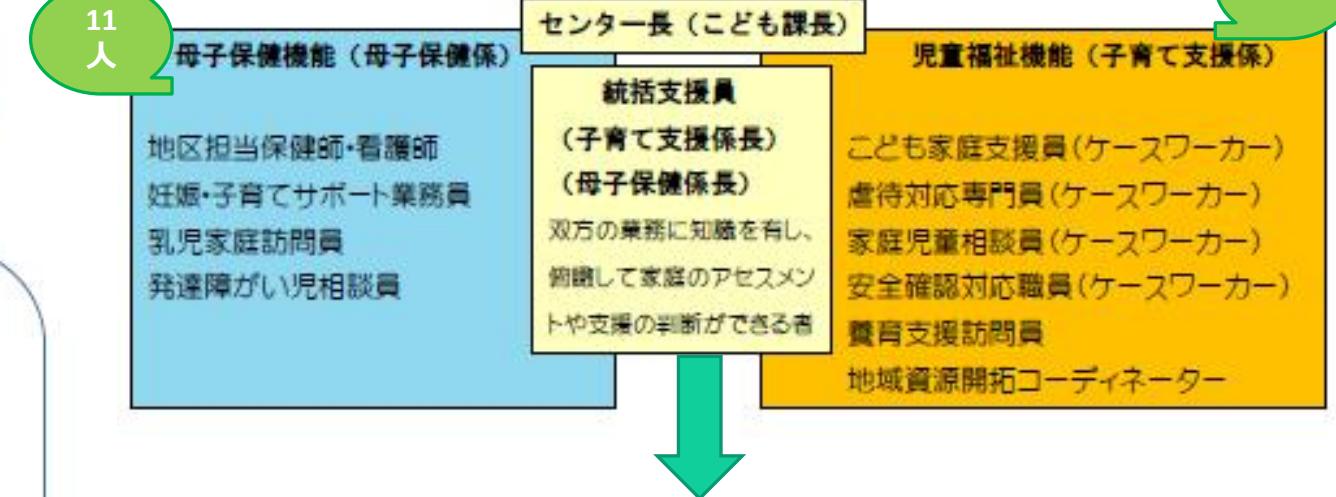
⑤子育て支援やこども応援に関する情報発信

サービスやこども食堂の紹介など、市公式SNSをとおした積極的な発信

■センターの組織体制および設備

①組織体制

こども課長をセンター長、子育て支援係長と母子保健係長を統括支援員に位置づけ、両係をセンター所属で構成していくとともに、保健師、社会福祉士、保育士、栄養士、教職免許保有者、心理士等の専門職を配置します。



<課題>

職員は本庁内に在席し、センターに常駐していない。機能分離しているため、統合する必要がある。

→約20人の執務スペースが必要

こども家庭センター ひなたの森（健康管理センター）

②設備 (1)～(3)は健康管理センター1F、(4)は2Fとなります。

(1) ロビー・・・こども家庭センターの概要や、ご家庭でできる親子遊び、絵本、子育て情報を紹介します。乳幼児健康診査時の親子の待機ロビーを兼ねています。



(2) もりのあそびば・・・プレイルームにおいて、知育玩具や絵本を使った「親子遊びをとおした面談」から、親子のふれあいをとおした愛着形成をサポートします。ご家庭でも取り組めるよう、玩具の貸し出しありを行います。



(3) 相談室・・・保護者・こどもや妊産婦の相談をお受けするだけでなく、こどもとの関わり方や生活習慣形成、出産準備、子どもの自立準備等に関する視覚教材を、職員が一緒に視聴し、取り組みのイメージを共有します。

(4) 多目的ホール・・・乳幼児健康診査や出産準備に向けたパパママ教室、赤ちゃん相談、健診事後教室などを行います。

＜参考＞

健康管理センターの活用状況

稼働状況：市役所開庁日開館

稼働日数：月8日から15日程度 ※相談は隨時

母子保健の健診事業の内容：

問診(保健師)、身体重測定、発達・栄養相談、眼科屈折検査、視力検査、尿検査、診察(内科・歯科)等

開催回数：健診(4回)7ヶ月、1歳半、2歳半、3歳半

健診事後教室(2回)

ことばの相談(2回)、療育相談(年4回)

駐車場の有無：1回の健診につき最大35台程度

■サポートプランの作成とこども家庭支援

妊産婦や養育不安などの個別のご家庭の支援においては、こども・保護者とニーズの確認を行いながら、支援メニューと家庭での取り組みをまとめた「サポートプラン」を作成します。



また、「日向市要保護児童対策地域協議会」や民間支援団体とともに、個別のご家庭と関わりがもてる支援機関・団体とのつながりづくりに取り組み、ご家庭ごとの子育て応援団を作り、ネットワークによる支援連携を推進します。

ご家庭の状況に応じて、以下の家庭支援事業や地域の子育て支援サービスの利用を勧奨します。

①親子関係形成支援事業・・・親子関係の構築に向けたこどもへの関わり方を学ぶペアトレーニング。本市では家庭・親子支援プログラム事業として、子どものほめ方・しつけ方・伝え方の連続講座を実施。

②子育て短期支援事業・・・養育不安や家庭事情により子どもの家庭養育が困難となった際に、児童養護施設に委託して実施することのショートステイ。

③子育て世帯訪問支援事業・・・養育不安があるご家庭に、家事・育児援助のヘルパー派遣を行い養育環境の安定を支援し、自立した習慣形成をサポート。

④一時預かり事業・・・保育園等での一時預かり。子育て負担の軽減目的での利用が可能に。

*その他、こども食堂団体に委託しての、宅食をとおしたご家庭の地域での見守り「見守り宅食便」(支援対象児童見守り強化事業)を実施しています。

日向市こども家庭センターひなたの森

日向市福祉部こども課 母子保健係・子育て支援係

Tel 0982(66)1021 e-mail kodomo@hyugacity.jp

センター職員は市こども課に配置。センター設備は日向市民健康管理センター内になります。

こども家庭センター ひなたの森 現況図

ロビー①>子育て支援情報や、ご家庭でできる親子遊び、絵本、子育て情報を紹介します。



相談室>面接だけでなく、こどもの関わり方や生活リズム・習慣の形成、出産準備等に関する視覚教材と一緒に視聴し、家庭での取り組みのイメージを共有します。



ロビー②>絵本や、家庭の日用品で簡単に作れるおもちゃを紹介しています。



ロビー③>乳幼児健診時は親子の待機所にもなるため、“心と体がのびのび育つ遊び”を紹介しています。



もりのあそびば①>知育玩具や絵本を使った親子遊びの体験面談を一緒にを行い、メディアにふれがちな日常の中で、家庭での関わりの習慣づけを目指して、愛着の形成を応援します!職員でアイデアを出し合い、こどもがまだ行きたいと思える空間づくりに努めました。

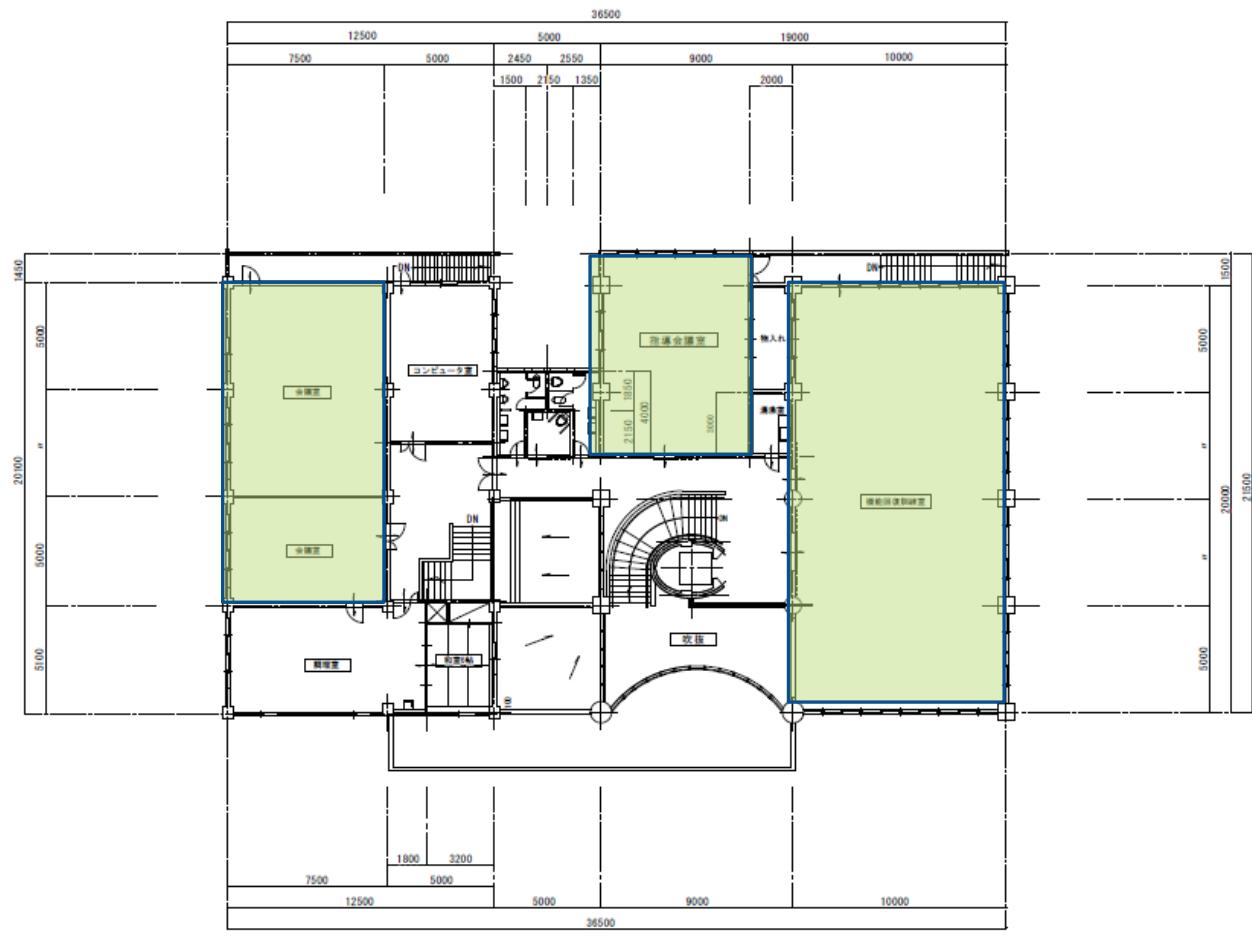
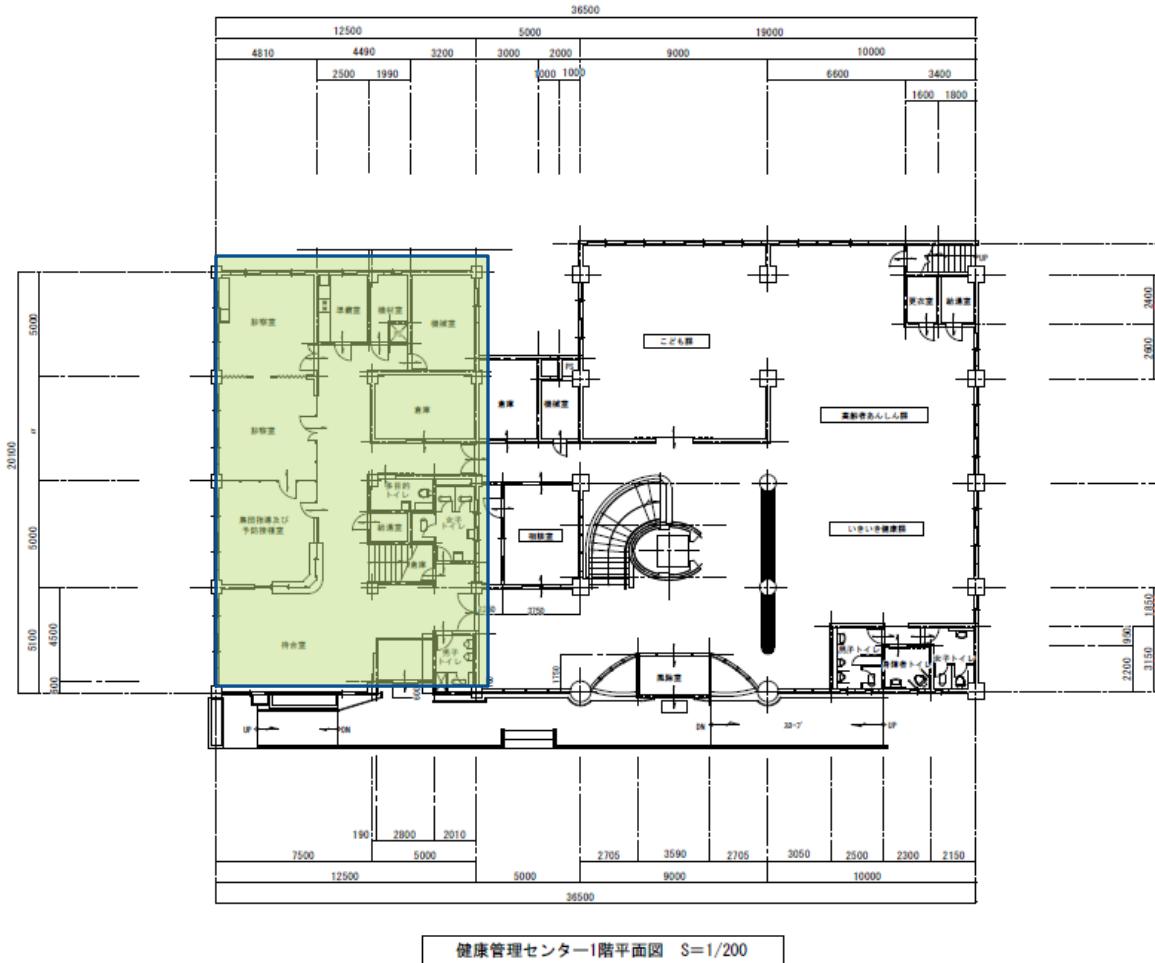


もりのあそびば②>家庭に玩具を貸し出しえるよう、歳児別におもちゃをそろえる予定です。



2 健康管理センター

- ・健康増進課・こども課の健診・・・新館2階、旧館は全館使用
 - ・健康増進課・・・定期健診と各種がん検診で年20日～25日程度使用。
事後教室等でも10回程度使用
 - ・健康増進課の健診は、大型の検診車が5台ほど入る駐車スペースが必要
 - ・こども課・・・毎月7回程度（健診4回、相談3回）



<参考> 図書館との連携事業の状況

■ブックスタート

赤ちゃんと保護者が、絵本を介して心触れ合う時間を持つきっかけを作るために絵本を贈る事業

○令和6年度実績

- ・ブックスタート(7か月児) 319人
- ・ブックスタートプラス(1歳6か月児) 384人
- ・ブックスタートツープラス(3歳6か月児) 414人



■健診時の読み聞かせ

ドレミ教室、ソラシド教室

■パパママ教室の配布資料やチラシ添付



■ 当日の流れ

9:00	受付
9:05~9:45	問診
9:45~10:00	自由遊び・保健師からのお話 片付け
10:00~10:50	絵本の読み聞かせ
10:50~11:00	親子で一緒に遊ぼう！
	母子健康手帳返却（終了）

赤ちゃんと絵本のひとときを

Share books with your baby !

ブックスタートは一人ひとりの赤ちゃんに
絵本を楽しむ「体験」と「絵本」をセットでプレゼントする活動です。
イギリスで始まり 日本でも市区町村の事業として 全国に広がっています。

● 赤ちゃんと絵本のこと Q&A ●

Q 赤ちゃんに絵本がわかるの？ ↗

A 赤ちゃんは、おはなしの内容はまだわからぬかもしれません。でも、絵本の絵やことばのリズムなどを楽しんでいます。 ↗
赤ちゃんにとって絵本は、読む(read books)ものではなく、読んでくれる人と一緒に楽しむ(shared books)もの。大好きな人が、抱っこのぬくもりの中でやさしくことばをかけてくれる……。そんなひとときが、赤ちゃんはうれしくて心地よいのです。 ↗

Q 絵本をただめくって遊んだり、なめたりしてしまいます。 ↗

A 赤ちゃんは、身近なものをさわったりなめたりしながら、それが何であるかを確かめます。絵本とのおつきあいもそんなことから始まり、やがて誰かに読んでもらう楽しさに気づいていくのです。 ↗
たくさん楽しんだ絵本は家族の思い出。お子さんが大人になった時に、プレゼントしても素敵ですね。 ↗

Q 絵本選びに迷う時は？ ↗

A 絵本を選ぶ時は、お子さんと保護者の方の「好き！」という感覚をどうぞ大切に。図書館のおすすめの絵本を読んでみたり、おはなし会に出かけたりすることも参考になりそうです。 ↗
お子さんと一緒に、お気に入りの絵本を見つけてみてくださいね。 ↗

Q 絵本を読んであげる余裕がありません。 ↗

A 忙しい毎日の中で、絵本を「読まなくちゃ」と思うと、楽しみではなく負担になってしまいますよね。絵本は赤ちゃんとのコミュニケーションツールのひとつ。無理に「毎日」「全ページ」読まなくてもいいんです。 ↗
ほんのひととき、赤ちゃんとゆったり過ごしたいな……。そんな気分の時に絵本をひらいてみませんか？ ↗

2分でわかる動画
「赤ちゃんと いつしょにえほん」



ぜひ 赤ちゃんと一緒に 日向市立図書館へお越しください。 ↗

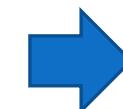
地域子育て支援拠点（商工会議所 1階）

事業名	子育て支援事業	子どもの活動支援事業	まちづくり・舞台勧奨支援事業
事業内容	つどいの広場 たんぽぽ きっず	のびのびキッズルーム (小中学生対象)	まちなかクリーン作戦
	ヘルシースタート事業 ・コモンセンスペアレンティング ・Nobody's Perfect Program ・子育てサロン	のびのびキッズ チャレンジ教室 ・親子クッキング ・工作教室 ・オセロ大会	地域のお祭りへ参画
	相談事業	まちなかこども図書館 ・たんぽぽキッズ内の図書貸し出し初回200円	舞台勧奨

※オレンジ部分：市から「NPO法人こども遊センター」に業務委託している事業

【課題】

つどいの広場は、地域子育て支援拠点事業（一般型5日型）として開設。子育て世代からは土日開館を望む声が多い



新たな施設では、機能を拡充し、地域子育て支援拠点として6日間開館とする。

屋内遊び場（新設）機能の集約

検討中のため
未定稿

統合「たんぽぽきつず」(57m²)



(新設) 体を動かせる遊具



(新設) 知育玩具



<屋内遊び場>
最大 400m²程度
ターゲットは未就学児
利用料金制が望ましい



3 今後の予定

今後の予定

日 時	項 目
9月27日（土）	・第3回日向ラボ・ラボ（体験型ワークショップの実施）
10月～	・新しい図書館を語る会（関係団体との意見交換） ・サウンディング型市場調査（地元事業者との意見交換）※arg企画
11月28日（金）	・第3回アドバイザリー会議
11月29日（土）	・第4回日向ラボ・ラボ（アドバイザー 青山准教授講演会及びワークショップ）
12月14日（日）	・新しい施設についてみんなで語りあう会 ※arg企画 ゲストスピーカー：新潟県小千谷市（オンライン参加）
1月（未定）	・第5回日向ラボ・ラボ（アドバイザー 桑野教授講演会及びワークショップ）

市民と共に創る新しい図書館 第3回「日向ラボ・ラボ」のお知らせ

新しい図書館複合施設の整備に向けて、複合化をする機能の実証実験やアンケートを実施することを目的に、第3回目となる「日向ラボ・ラボ」を開催します。

今回は、昨年度の市民アンケートで最も要望の多かった「ワークショップ」の声を踏まえたプログラムを実証実験するため、中学生、高校生、大学生をターゲットとしたものづくり体験のワークショップを行い、皆さまのご意見を今後の施設づくりに活かしてまいります。

▶ 開催概要

日 時：令和7年9月27日(土)
13時00分～17時00分

会 場：日向市役所1階市民ホール

テマ：創造の芽を育てよう。
「新しい学び」の発見

対 象：市内在住の中学生、高校生、大学生
定員35人

企画・運営：株式会社イツノマ
代表取締役 中川敬文

▶ 内容

実践的な学びと想像の場の実証実験として、「中高生が行きたいなるカフェづくり」にA～Eの5つのチームに分かれて体験型ワークショップに取り組みます。

Aチーム ブランドチーム

Bチーム メニュー開発チーム

Cチーム 空間デザインチーム

Dチーム PR・発信チーム

Eチーム 衣装チーム

カフェづくり | ①ブランドチーム

カフェのブランドづくりを体験！デジタル機材でカフェづくり！

Aチームサポーター



体験型シェア工房ツクレタ
宮崎市

- 自分の手で一つの作品を完成させる「ツクレタ体験」を創造する会社
- 宮崎県を中心に様々な出張ワークショップも請け負っている

体験コンテンツ



Copyright©2022 ITSHOMA Co.,Ltd. All Rights Reserved.

カフェづくり | ②メニュー開発チーム

日向らしい「へべす」を使った、カフェメニューの開発体験



Copyright©2022 ITSHOMA Co.,Ltd. All Rights Reserved.

カフェづくり | ④PR・発信チーム

アニメーションや動画制作を通して、理想のカフェを発信！

Dチームサポーター

体験コンテンツ



株式会社amaru
都農町・日向市

- 実践型を中心とした動画制作やweb制作、DX・ICT伴走支援など請け負う会社
- 日向市、都農町にてリーン起業。

Copyright©2022 ITSHOMA Co.,Ltd. All Rights Reserved.

カフェづくり | ⑤衣装チーム

みんなが思わずつけたくなるカフェエプロンをデザイン・制作！

Eチームサポーター

体験コンテンツ



株式会社イツノマ（小林）
都農町

- 山口県鹿児島高校附属学科卒業。監修のみな
- 影のアパレル業。2025年4月にイツノマ入社し、都農町高校生も作りチームを運営。

Copyright©2022 ITSHOMA Co.,Ltd. All Rights Reserved.